

# 3日 金曜

## I サムエル

18:17 サウルはダビデに言った。「これは、私の上の娘メラブだ。これをおまえの妻として与えよう。ただ、私のために勇敢にふるまい、【主】の戦いを戦ってくれ。」サウルは、自分の手を下さないで、ペリシテ人に手を下させよう、と思ったのである。

18:18 ダビデはサウルに言った。「私は何者なのでしょう。私の家族、私の父の氏族もイスラエルでは何者なのでしょう。私が王の婿になるとは。」

18:19 ところが、サウルの娘メラブをダビデに与えるというきになって、彼女はメホラ人のアデリエルに妻として与えられた。

18:20 サウルの娘ミカルはダビデを愛していた。そのことがサウルに告げられた。そのことは、サウルの目には良いことに思えた。

18:21 サウルは、「ミカルを彼にやろう。ミカルは彼にとって羨となり、ペリシテ人の手が彼に下るだろう」と思った。そして、サウルはもう一度ダビデに言った。「今日こそ、おまえは婿になるのだ。」

18:22 サウルは家来たちに命じた。「ダビデにひそかにこう告げなさい。『ご覧ください。王はあなたが気に入り、家来たちもみな、あなたを愛しています。今、王の婿になってください。』」

18:23 サウルの家来たちは、このことばをダビデの耳に入れた。ダビデは言った。「王の婿になるのがたやすいことに見えるのか。私は貧しく、身分の低い者だ。」

18:24 サウルの家来たちは、ダビデがこのように言っています、と言ってサウルに報告した。



聖書の記述

18:25 サウルは言った。「ダビデにこう言うがよい。王は花嫁料を望んではない。ただ王の敵に復讐するため、ペリシテ人の陽の皮百だけを望んでいると。」サウルは、ダビデをペリシテ人の手で倒そうと考えていた。

18:26 サウルの家来たちはこのことばをダビデに告げた。王の婿になることは、ダビデの目には良いことに思えた。そこで、期限が過ぎる前に、

18:27 ダビデは立って、部下と出て行き、ペリシテ人二百人を討つて、その陽の皮を持ち帰った。こうしてダビデは、王の婿になるために、王に対して約束を果たした。サウルは娘ミカルを妻としてダビデに与えた。18:28 サウルは、【主】がダビデとともにおられ、サウルの娘ミカルがダビデを愛していることを見、また知った。

18:29 サウルは、ますますダビデを恐れた。サウルはずっと、ダビデの敵となつた。

18:30 ペリシテ人の首長たちが出陣して來たが、彼らが出て来るたびに、ダビデはサウルの家来たちのすべてにまさる戦果をあげ、彼の名は大いに尊ばれた。

サウルはダビデを戦死させるために、戦いに向かわせ、その報いとして娘をあたえると約束します。しかしダビデは無事に勝利して帰ります。主のために謙遜に生きる者には、主の守りがあるものです。サウルと対照的です。

サウルは「主がダビデとともにおられる」と見て知ったにもかかわらず、心が改まりません。主に敵対しており、主への恐れがなくなっていることがわかります。これは不信仰の末期的な状態です。罪を認めたなら、自分を変えて改めることに真実であります。

ダビデの謙遜と従順は変わりません。それで「彼の名は非常に尊ばれた」のです。後に王となるための基盤が、王位を求める謙遜から生まれたのです。私たちも謙遜と従順が、将来を形作ることを知りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

